

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 159号

平成27年7月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「小西芳之助金曜会・同志会日誌語録」より (8)

聖書は自分の生活で分かる

聖書は自分の生活で分かる。読んで分かるのではない。我々の信仰が進むにつれて聖書が分かってくる。だから信仰のある人で聖書を読まぬ人はない。聖書の本当の信仰の正確な調子が出ているのだから、毎日聖書のキィを叩いていると自分の生活の調子が合ってくる。福音は高島君の言うように頭がはげないと分からない。毎日読むように勧めたい。

(昭和36年4月28日金曜会)

自己の境遇に打ち勝つ力

朝早くラジオの「青年の時間」というのを聴いていたら、亀井勝一郎氏が「人間の成長の度は自己の境遇に打ち勝っていく力によって測られる」と語っていた。成程と思った。自分の過去を振り返ってみると自分の成長は低調である。私は決して困難を克服して来た人物ではない。人生に困難が横たわっているのはその人を成長させる砥石である。

(昭和36年10月6日 金曜会)

患難・忍耐・練達・希望

友人に「患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを知っているからである」（ロマ書5章3～4）という聖句が好きな人がいた。ところで真にキリスト教を身につけると患難の意味が変わるらしい。我々は患難から逃げようとするが、患難を喜ぶように患難の意味が変わらねばならない。忍耐は喜びを耐えるようにならねばならない。

（昭和36年10月22日 金曜会）

信仰は奇蹟

信仰は奇蹟だということを感じた。私はもうその問題は当然のことと考えていた。奇蹟である信仰は説明では分からない。聖書にそう書いてあり、私もそれを信じるというのが私の答えだ。

ところでいつも言うが、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ロマ書 3 章 23) の自分の罪を知ること、「彼らは価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである」(3 章 24) の神の愛を知ることが一体であり、自分の罪が分かれば己の罪も分かり、神の愛が分かれば己の罪も分かる。これが分かればキリスト教も半分以上分かったと言える。そのことをよく心に入れておいてほしい。

(昭和 36 年 10 月 20 日 金曜会)

娘の結婚

私の娘は無事成長し今度結婚式を挙げる事が出来たのは非常に有難いと思っている。

その結婚式の前日私は娘を呼んで次のようなことを言った。「母が10数年前死ぬ2日前の皆を枕元へ呼んで言ったことをお前も覚えているだろう。「私はこれから天国へ行くがやがてお前たちも良い人になって来なさい。待っているよ」と。それから私に「今まで気ままな生活をさせていただきました。子供たちをどうか宜しく」と言ったのを覚えているだろう。お前たちは立派に成長したから私の責任の半分は終わったが、後半分の天国へ行く仕事が残っている。お前も良い人になって天国へ行け。私ももうすぐ行く。お前はアブラハムとロトの話を日曜学校で聞いて知っているだろう。この話には深い意味がある。だからお前も何か事があたら人にゆずれ。そして残った分を取れ。東京には立派な青年が大勢居るが、それ等はお前の友人のために残しておいてお前は盛岡の田舎へ行け」と言って別れた。記念祭で諸先生の感話を聞いてこのことを思い出し、いつもより非常に感銘が深かった。

(昭和36年11月17日 金曜日)

土下座してお礼

昨年12月28日千葉の方へ行った。29日の朝、私が泊めてもらった家へ私を訪ねて来た人がいた。その人は新潟から夜行で来た。その人は私が泊った家の親類がガンで命が危ないので親族を代表してやってきて石館先生に薬を頼みに来たのだった。石館先生がやってきて、新潟ガンセンターに紹介状を書いて下さった。私がお送りした後、その山本という親族代表者から話を聞いた。その人は石館先生に対して、廊下に土下座してお礼をしていたということだった。家内は“あの人は他人の病気のための薬をもらってあんなに感謝している”と言った。そして“私は日常聖書の教えを聞いているのにあのようなことは自分でしたことがなかった”と言った。あの“石館先生ありがとうございます”と言ってひれふしてお礼をいう態度が我々に欠けているのではなかろうか。

親鸞のことについて言えば同じことがある。福音を聞くということとは学問でもなければ努力でもない。何しろ分かることである。あの“ありがとうございます”と言ってひれ伏して受ける態度こそ尊い。

(昭和37年1月19日 金曜会)

滅ぶべきものが永遠に生きるものになる

これからも聖書の勉強をするだろうが、聖書の文句というものは一つの円周をなしている。一つの軌跡をなしている。どこをとっても中心点から等距離にある。同じ性質を持っている。したがって聖書の研究には、自分の考えを捨てて聖書の教えに従う。自分の考えを捨てる。そういう謙遜な態度が必要。自分の好きなところだけを読んだのではいつまでたっても分からん。分からないところ、または平凡なところが分かるようにならねばならん。したがって真理の中心は、義にして愛なる神が我々を救うた（一人子を遣わした）こと。イエスキリストの贖いと関連を持っている聖書全体が主張する中心点分かるようにならねばならん。虚心坦懐に学ぶ。永遠の生命、罪のあがない、古い自分を捨てて……。mortal なものが immortal になるのが救い。円の中心は亡ぶべきものが永遠に生きるものになるということだということ覚えてもらいたい。奉仕とか何とかいうが永遠の存在者のみ奉仕できる。

(昭和 37 年 2 月 2 日 金曜会)

ジョン・フォックス

この間キリスト者学会でクエーカーのジョン・フォックスの話を聞いた。小学校にも行ってない。19歳の時から家を出て23歳頃から伝道した。聖書は何べん読んでもそれを書いた人の生命と霊がなければ聖書は分らん。自分は死んで生まれ変わって永遠の生命に生きることがジョン・フォックスの中心。

キリスト教は頭の宗教ではない。霊である、生命である。永遠に生きる生命。それがなければいかに聖書をよく知ってもそれは人を救わん。生命じゃないから、せっかくキリスト教に接したのだから、永遠の生命、復活。そして伝道師にならんでもよい。伝道は平信徒がするもの。口ではない。永遠の生命を持って居たら黙っていても人に伝わる。永遠の生命を生きることが伝道。銀行員も……可。

私を charm するものはいろいろある。しかし永遠の生命、口で……言うが永遠の生命を持っているクリスチャンは少ない。本当の喜びと感謝にみちた信者がいるか。自分がやっていないことを他人にやれと言っても無駄。後光の出るような人はいない。しかし永遠の生命に勝るものはない。

(昭和 37 年 2 月 2 日 金曜会 続き)

一日一生

S君のちょうちん持ちをするようだが、小さな善をやる、小善をやる。自分一人でやる。他人を誘わずこういう習慣をおつけになったらよいと思う。人間は何をしたかということは非常に大切じゃないかな。何を考えていたか何を思ったかではなくて人間は何をしたか。毎日早祷、毎日曜集会に出ることが非常に大きい。我々が何をしたかということは我々の考えに大きな影響を与える。内村先生が「一日一生」と言われたが、小さい善をする一日一日が君達を決定する。早祷に毎日出る。何をするかは何を考えるかより非常に大切。したがってS君の言うように、毎日出るということも非常に大きなことだと思う。

(昭和 37 年 2 月 2 日 金曜会 続き)

とっておきの話

新人の方には始めてなので簡単に自己紹介する。昔は今と学制が違うので私は大正9年より3年間同志会にいた。大学に出てから安田信託に20年位おり、牧師に転向し、今では高瀬先生を助けている。

...

4月15日は母が亡くなった日であるが、それから満11年目に橋本耕三先輩（大12）が亡くなった。彼とは特に親しくして頂いていたし、特に母の命日に亡くなった故感銘が深い。彼が死ぬ前日見舞いに行った。私は大学時代から内村先生の講義を聴いており、信仰も少々分かっていた故に、牧師になるつもりであった。この話は取っ
とっておきの話である故しっかり聞いてくれ。

満鉄に入ろうと思っていたら橋本耕三君が「きみ満鉄と言ったら金儲けする会社やなあ」と言っていたが、彼のそういった顔が忘れられぬ。橋本耕三君も司法官になるつもりであったが今の三和銀行に行ったが「金儲けをする会社やなあ」と言った顔が真に感銘深い。牧師になる時菊井維大先輩（大12）が「もし橋本耕三君がいたら彼がお祝いの言葉を言ってくれたらうね」と言った。

（昭和37年5月18日 金曜会）

人間の最も深いものは意志

人間の最も深いものは意志と思う。知恵と情はうわべのものと思う。その意志は願望により具体化される。言行はその人の全部ではない。共産主義の強さは、願望の具体化されたものとしての歴史観にあると思う。そこに彼らの力の根源がある。クリスチャンは復活体を戴くことを願望している。人間の力は願望から来、それは意志の具体化したものだ。限りなき命がクリスチャンの願望である。それは人が持って生まれているものではない。もしそうなら自然に内から出てくるはずだ。これは神の賜である。持っていない他の世界を開く鍵は信仰である。新しい世界を開くには非常に謙遜な態度が必要だ。又従順でなければならぬ。

(昭和 37 年 5 月 18 日 金曜会 続き)

稽古

横綱の若乃花が引退した日養護施設を訪問し喜んでいる写真が出ていたが、子供達が「どうしてそんなに強くなったの」という質問の答えに「稽古することだ」と言っていたが、僕が聞かれたらはっきりこうだという決め手はない。僕にとっては内村先生の講義を聞いたことがある程度の決め手になったが、他の人にそのように言うとしたら、「聖書の話聞きけ」というしかない。ロマ書8章の如き感想を、今までの反省して感じている。

(昭和37年5月18日 金曜会 続き)